



**鈴木麻里菜副議長**

次に、新宇都宮部会 34番 清原中学校2年 田中まゆさん、44番 宝木中学校3年 多田出萌里さん。

**34 番 田中まゆ議員**

議長，34 番

**44 番 多田出萌里議員**

議長，44 番

〔34 番 田中まゆ議員，44 番 多田出萌里議員 登壇〕

**34 番 田中まゆ議員**

34 番，清原中学校の田中まゆです。

よりよい宇都宮にするために、「宇都宮市の景観」について質問・提案させていただきます。

現在，宇都宮市が取り組んでいる事業は宇都宮百景の選定や景観賞の設置，現在残されている環境の保全など，多岐にわたり素晴らしいことだと思います。

そこに付け加えて中高生の視点から見えてきた改善点を二つほど提案させていただきます。

まず、うつのみや百景について提案いたします。

うつのみや百景は、百景の選定のみを行い、それとわかる目印などが存在しないのが現状です。

確かに心に残る風景ということが選定条件であるので、目印は不必要なのかもしれませんが、百景のうちには由来がわかってこそ、その真価を發揮するものもあると思います。

よって、目印を設置すると共に、加えてその風景についての感動を他の人にも伝えるための、「俳句・川柳掲示板」とも言うべきものを設置することを提案します。

短歌や川柳というものは先人が作り出した偉大なる遺産、日本語の美しさを感じさせる技術です。この形式にのっとなって他の人と感想と共有することによって、その場所についての印象はより深くなり、うつのみやの原風景として心に残ることと思います。

また、この掲示板は昨今のインターネットの発達を鑑み、情報端末を現地に置き、掲示板本体をインターネット上におくことで、携帯電話での投句などもできると利用しやすいのではないかと思います。

これらの提案によって、うつのみや百景は、末永く人々の心へ受け継がれていくでしょう。

次に、「ゴミ箱の設置」について提案します。

現在、宇都宮市ではゴミは自宅に持ち帰り処分するように指導をしておりますが、人が立ち止まることが多い場所、すなわち、信号待ちの長い交差点、バス停の近く、ベンチ付近には多くのゴミが散らばり、自動販売機の横の空き缶入れからは関係のないゴミが顔を突き出しているのが現状です。

ゴミを自宅で処分するというのは理想ではありますが、現状が示しているとおおり、出たゴミを持ち帰るのはわずらわしいことでもあります。

市民の快適な生活のためには要所へのゴミ箱の設置があっても良いのではないのでしょうか。

ゴミ箱を設置することにより

- ・ ゴミの分別が徹底されなくなる
  - ・ ゴミの回収に手間がかかる
- 等のデメリットはありますが、同時に、
- ・ ゴミを持ち帰る手間が無くなる
  - ・ 現在散乱しているゴミが消える
  - ・ ボランティアグループなどの清掃活動が楽になる

等のメリットも望めます。

長い目で見るとゴミを持ち帰ることは有効なのかもしれませんが、目の前にある問題を今すぐ出来ることで解消していくのも大切なことではないかと思います。

以上で質問・提案を終わりとします。よろしく申し上げます。



#### 44 番 多田出萌里議員

44 番、宝木中学校の多田出萌里です。宇都宮市の公共交通機関に対する取り組みについて提案いたします。

私たちが議論を重ねた結果、私たちが作り上げてゆくべきまちは「お年寄りにやさしいまち」だ

という結論に達しました。お年寄りにやさしいまちづくりができれば、私たちにとっても住みやすいまちになるという考えのもと、そのようなまちにしていくなめにはどうすべきかを考えました。

まず、私たちは宇都宮市の交通の現状について調べました。主な取り組みとしては、個人の生活スタイルに合わせた専用時刻表の送付、バス停付近の駐輪場の設置、リサイクル自転車の再利用、清原さきがけ号、宮バスの外装デザインの募集などがあるそうです。交通政策課の職員の方の話によると、これらの取り組みは住民の暮らしをさらに快適なものにしているようでした。しかし、その取り組みには、まだ不十分な点があるように思われます。

宇都宮市の公共交通機関はもっと住民にとって利用しやすいものであるべきだと私たちは考えます。

先ほど述べた宇都宮市の取り組みの中に、個人の生活に合わせた専用時刻表の送付というのがありました。その取り組み自体は、とても丁寧な案内として、利用者に大変役立っているということでした。しかしながら、この取り組みの知名度は低く、あまり多くの人に利用されていないという点が非常に残念でなりません。

また宇都宮市のホームページではバスの路線図の掲載を行っているようですが、それでは行き先、発車時刻、料金などの情報までは入手できず、依然として不便な点があるのではないかと思います。そこで私たちは、専用時刻表の存在をよりたくさんの人に知ってもらい、よりたくさんの人に利用していただき、そしてより多くの情報を市民に提供できるようなシステムへの改善を提案します。

専用時刻表については、今まで郵送というかたちで利用者の方に渡っていましたが、インターネットとなるとより多くの方が、より手軽に利用することができるのではないのでしょうか。私たちが市のホームページ等で見た限りでは、分かりやすいシステムとはなっていないので、提案させていただきます。

また、さらに利用しやすい公共交通網を作り上げるために、宮バスやさきがけ号などの細かい交通手段をより充実させることも大切だと思い、提案します。



また市民の自転車利用を促進させるために、現在行っているバス停付近の駐輪場の設置やリサイクル自転車の再利用に加え、自転車専用道路の設置やレンタル場所の増設を提案します。自転車利用の増加に伴い、市民の自転車使用の際のマナーの向上も益々必要となることでしょう。

是非まちゆく人全員が気持ちよく過ごせる宇都宮を目指していただきたいと思います。

以上で提案を終わりにします。これらの提案に対する市の見解をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

**佐藤栄一**宇都宮市長

議長、市長

**鈴木麻里菜**副議長

市長

[佐藤栄一宇都宮市長 登壇]

## 佐藤栄一宇都宮市長

「新宇都宮部会」のご質問に、順次お答えいたします。

まず、田中議員の「宇都宮市の景観について」のうち、「うつのみや百景について」であります。宇都宮のまちづくりに配慮した、宇都宮市の景観を大切にしていきたいとのご提案に深く感銘を受けました。

まちの個性や魅力へとつながる風景は、地域にある自然とそこに住む人々により育まれてきたものであり、本市にとって貴重な財産と言えるものです。

そこで本市では、郷土の誇れる風景を後世に引き継ぐため、21世紀の始まりの年である2001年に、市民のみなさんと、「うつのみや百景」を選定し、百景マップを作成するとともに、バスツアーやホームページ、また景観出前講座などにおいて広く周知に努めているところであります。

議員ご提案の「目印の設置について」であります。うつのみや百景の由来が記された表示板などの「目印の設置」は市民や来訪者のみなさんに、より広く知っていただくために大変有効でありますことから、その設置の実現に向けて、検討してまいります。

次に「俳句・川柳掲示板の設置と情報端末や掲示板本体のインターネット上への設置について」であります。短歌や川柳という日本固有の表現方法で「うつのみや百景」から受けた感動を多くの人々と共有することは、「うつのみや百景」を心に残すという点で大変有効であります。その取組にあたりましては、市民や関係団体などとの連携や協力が不可欠であることや、また、仕組みづくりに相当の時間を要しますことから、今後はその手法も含め、実現に向けて調査・研究してまいります。

次に、「ゴミ箱の設置について」であります。議員ご提案のとおり、一部の心無い人によるごみのポイ捨てを解消するための、「人が立ち止まることが多い場所へのごみ箱の設置」は、一時的な効果は期待できると思います。以前、宇都宮市では、市内の公園にゴミ箱を設置しておりました。ところが、家庭のゴミとか様々なゴミを持ち込まれるということになり、大変ゴミで溢れてしまったことがあります。そのようなことから、快適な生活環境を保つためには、やはり市民自らが、「ごみを持ち帰ることはあたりまえ」という、そういう思い、意識を持つことが大切であると考えております。

こうしたことから、本市では、市民一人ひとりが、互いを思いやる気持ちを持ちながら、市民や来訪者が快適に過ごすことが出来る「きれいなまち宇都宮」を、市民、事業者、市が一体となって実現し、良好な市民生活を維持するために、ごみの持ち帰りなどを定めた「宇都宮市みんなでごみのないきれいなまちをつくる条例」をつくり、7月1日から実行することといたしました。

今後とも、この条例の趣旨や内容の周知と啓発に努めるなど、次の世代に誇りを持って引き継ぐことのできる、きれいなまちづくりを進めてまいります。

なるべくであれば、法律などの制約も受けなくてもいいようなそういう社会にしていくためにも、皆さんで努力をしましょう。

次に、多田出議員のご質問にお答えいたします。優しい気持ちに大変嬉しくなりました。高齢者そして障害者、また皆さんのような高校生以下の子ども達、社会的な弱者といわれています。これ

からも市といたしましては、そうした方々にしっかりと力を入れる政策を作ってまいりたいと思います。高齢者の方には、緊急通報システムというのを今年から実施しております。これは一人暮らしの方がこれから増えてきます。そうした方は一人で暮らしていると不安だと思います。ましては、病気になったら大変なことになる。そこで、ブザーを押すだけで、24時間体制でセンターに繋がって、例えば、お腹が痛いとなったら、そこにお医者さんがいますから、お医者さんに相談する。そして場合によっては、救急車を直接そこに、そこから呼ぶこともできます。そして、日常困ったことも、常に相談するようなことができる緊急通報システムを4月から実施をいたしました。そのように、高齢者、あるいは皆さん、そして障害者に優しいまちづくりにしてまいりたいと思っております。

多田出議員の「宇都宮市の公共交通機関について」であります。これからの環境問題や高齢社会をふまえ、よりよい宇都宮市としていくための交通のあり方につきまして積極的なご提案をいただきありがとうございます。

まず、「インターネットによるバス情報の提供について」であります。本市では、バス交通の利用促進を図るため、現在、石井街道や白沢街道の沿線地域におきまして、最寄りのバス停の専用時刻表の郵送配布やホームページへの情報提供などを行っているところであります。

議員ご提案のインターネットによる情報発信は、市民の皆様、多くの情報がいつでも提供できますことから、公共交通を身近に感じ、愛着をもっていただくことや利用しやすい環境をつくり出すなど、公共交通の利用を促進する上で大変、有効な手段であると考えております。

このようなことから、今後、ホームページにおきまして市民にわかりやすい公共交通の情報提供を図るため、掲載内容の充実などについて検討してまいります。

次に、「細かい交通手段の充実について」であります。本市では、バスや鉄道が利用しにくい公共交通不便地域の解消を図るため、地域住民の皆様とともに新たな地域内交通の確保に取り組んでいるところであります。

今、バス路線も大変赤字路線が増えてきました。市も県も国もそこに支援をしています。でも、このままでは、当然、赤字路線はどんどん廃線となってしまっ、皆さんが利用しなくなってしまう、しづらくなってしま、ということになります。なぜなのか、やはり公共交通は料金が高いとか、あるいはバス停が遠いとか、あるいは時刻どおりに来ない、着かない、そういう不便さが指摘をされます。細かく交通網を広げていくことは、大変いいことでもありますので、ご提案のとおり、これからも積極的に実施していきたいと思っております。こうしたなか、平成20年1月から清原地区におきまして、ジャンボタクシーを活用した地域内交通「清原さきがけ号」が運行を開始したところであります。一月、千円の定期券で乗り放題です。一日9回、回ります。そして、病院やスーパーあるいは、各お家に近いところにバス停が63箇所出来ています。そこを通るジャンボタクシーでございますが、地域の皆さんの生活の足として、大変、喜ばれているところであります。

今後、宇都宮市はこうした地域内公共交通を清原だけでなく、篠井地区とか横川地区とか、あるいは、この街のなかの中央地区、あらゆる地域に地域の足として、設置をしていきます。そして、ご指摘のとおり、細かい公共交通を作っていきたいと思っております。その地域内公共交通というのは、そこから出ることは出来ません。後はその地域ごとを結節していく、結んでいく、今のバス路線を新たに組み直したり、あるいは、皆さんご存知のLRT、新交通システムをそこに繋げたり、新交通システムを東西だけですけれども、皆さんが大人になった頃、ゆくゆくは、環状線をぐるっと回

ったり、8の字になったり、そういうことも夢ではありません。そういう公共交通を作って、東京となんら変わらない、どこにいても帰って来られるという、高齢者や、あるいは皆さんのように運転免許の取れない、そういう交通弱者に優しい公共交通網を網の目のようにめぐらしていきたいと思っています。夢です、でもこれは、皆さんにそれぞれ来年以降、説明をさせていただきます。そこで皆さんが決めてください。皆さんがいいと思うのでしたら進めます。皆さんがそれはやらないほうがいいと反対する時にはやりません。こうした夢を持つこと、そういう夢のある公共交通網をこれから築いていきたいと考えております。

また、自転車もその一つです。「自転車利用の促進について」であります。本市では、環境にやさしく健康増進にもつながる自転車の利活用を積極的に進めるため、「走る」「止める」「借りる」など6つの施策に取り組んでいるところであります。

まず、「自転車専用道路の設置」についてであります。自転車の通行が多い区間におきましては、緑色のカラー舗装化を行うなど、今後とも、自転車が安全で走りやすい走行環境の整備を進めてまいります。

また「レンタル場所の増設」についてであります。現在、4箇所の駐輪場で実施しておりますレンタサイクルにつきましては、これまでも利用時間の延長などの利便性向上策に努めてきた結果、利用者数も年々増加しており、引き続き、利用者のニーズを把握するなど、皆様の声をお聞きしながら、レンタル場所の増設も含め、レンタサイクルの充実に努めてまいります。

今後とも、鉄道やバス、自転車などのあらゆる交通、そして公共交通が互いに連携をした、誰もが安全・安心に、そして、快適に移動できる交通環境をつくり、みんなが幸せに暮らせるまち「うつのみや」を目指してまいります。よろしくお願いをいたします。

### 鈴木麻里菜副議長

以上で、新宇都宮部会の質問を終わります。

発言通告者の発言はすべて終了しましたので、一般質問を終わります。

